

三豊市過疎地域持続的発展計画（案）に対するパブリックコメントの実施結果

1. 募集期間 令和7年11月10日（月）～令和7年12月10日（水）
2. 募集結果 提出者数2名、提出件数7件
3. 意見及び回答

NO.	意見	市回答
1	<p><19ページ 3. 産業の振興 (2) 対策 ①農林水産業> 26行目「認定農業人材」を追加記載する。 ・期待される新規農業者、集落営農組織、<u>認定農業人材</u>を確保・育成することが… 29行目「認定農業人材」を追加記載する。 ・新たに認定農業者、<u>認定農業人材</u>に移行しようとするもの… (理由) 核となる担い手に加え、多様な農業人材として経営計画が認定された者(認定農業人材という)も支援していくことが必要である。また、兼業農家・定年帰農者等への積極的な働きかけを行い、多様な人材の確保に努める。</p>	<p>ご意見のとおり、地域の農産業を持続的に維持・発展させるためには、認定農業者だけでなく、兼業農家や定年帰農者などで、市町が策定する地域計画に「農業を担う者」として位置づけられた農業者が創意工夫により経営発展を目指す経営計画（多様な農業人材経営計画）により認定を受けた「認定農業人材」も重要な担い手であると認識しており、多様な人材の参入促進に向けた働きかけを行うことも必要であると考えています。 このため、該当箇所についてはご提案のとおり「認定農業人材」を追記する修正を行います。</p>
2	<p><25ページ 3. 産業の振興 (2) 対策 ①農林水産業> 21行目～ 下線部の追加 …地域の実態に即したスマート農業を推進するとともに、<u>地域農業の担い手として、先端モデル農業者を選定する。</u> <u>なお、モデル農業者へは、作業の省力・効率化に資する機能が付加された、スマート農業機械(リモコン式草刈り機、防除用ドローン、多機能型自動給水</u> <u>栓、鳥獣対策ロボット等)の導入を図る。</u> (理由) 農業従事者の減少、高齢化に対応するためには、農作業のICTやAI技術導入は緊喫の課題となっている。スマート農業への理解を促すとともに、地域の実態に即した先端モデル農業者を選定、スマート農業機械を実証導入を図る。遊休農地を増加させないためにも、スマート農業化の進展は必然である。モデル農業者としての小さな一歩ではあるが、その地域がモデル地区と選定されるように、着実に進めていくことが必要と考える。</p>	<p>ご提案のとおり、農業従事者の減少や高齢化が進む中で、ICT・AI技術を活用したスマート農業の推進は重要な取組であると認識しています。また、地域の実情に応じた先端的な農業者の育成や、スマート農業機械の導入促進についても、農作業の省力化や効率化に寄与するものと考えています。 今回の計画では、地域の農産業の基盤強化を中心に、スマート農業の推進についても記載しており、いただいたご意見のスマート農業機械の整備等を個別の施策として明記することはしていませんが、スマート農業の推進は今後の農業振興を考えるうえで重要な視点であることから、引き続きその動向を注視し、必要に応じて施策の検討を行ってまいります。</p>
3	<p><37ページ 8. 医療の確保 (2) 対策> 29行目～ 下線部の追加・修正 …また、へき地診療所である財田、栗島、志々島診療所については、<u>みとよ市民病院から医師派遣を行うとともに、三豊総合民病院をはじめとした三豊・観音寺市における民間病院、へき地医療支援センターと連携を図り、継続的な医師の確保に努める。なお、オンライン診療について検討する。</u> (理由) 公表されている「第3期三豊市まち・ひと・しごと創成総合戦略(令和7年3月三豊市)」に掲載されている、⑤中山間地域・離島への医療の提供の施策目標(18ページ)を過疎地域持続的発展計画(案) 8 医療の確保 (2)対策と同一目標とすべきである。 過疎地域こそが、「医師派遣、オンライン診療」の優先かつ重点検討方が急がれる。</p>	<p>すでに、記載の医療機関からは、医師派遣いただいているため、素案での標記としております。オンライン診療同様、ご指摘のとおりと考えますので、「第3期三豊市まち・ひと・しごと創生総合戦略(3-1.目標3：みとよでスマイル〜持続と豊かさ〜・3-4.具体的な施策と重要業績評価指標(KPI))・(1)健康・福祉・医療・⑤中山間地域・離島への医療の提供)」と同一目標にし、修正・追加いたします。</p>
4	<p><13ページ 1. 基本的な事項 (6) 計画の達成状況の評価に関する事項> 「PDCA」計画の進行管理における「機動性」の導入について(PDCAからOODA・DCPAへ) 現代はVUCA(変動・不確実・複雑・曖昧)やBANI(脆さ・不安・非線形・不可解)と呼ばれる予測困難な社会情勢にあります。こうした中で、従来のPDCAサイクルによる計画管理は、変化への対応が遅れ、ネガティブリスクが高まると懸念します。環境変化が激しく、スピード感と柔軟性が求められる過疎対策においては、より機動的で実態に即したアプローチ(OODAループやDCPAサイクル)を取り入れるべきと考えます。 ・地域の現状への即応性(DCPAの利点)： 過疎対策、特に高齢化や集落機能の維持においては、詳細な計画策定に時間をかけるよりも、現場での小さな「Do(実行)」を優先すべきです。試行結果を即座に検証(Check)し、改善(Act)につなげることで、住民へのフィードバックも早まり、参画意欲を高めることができます。 ・変化への柔軟な対応(OODAの利点)： 複合的な地域課題に対し、単なるデータの確認(Observe)に留まらず、その背景にある地域の価値観や文化を深く理解(Orient)し、迅速に意思決定(Decide)を行うOODAループの思想は、過疎化の進行スピードに対抗するために不可欠です。 ・リソースの有効活用： 予算や人材に限られる過疎地域において、大規模な計画が途中で頓挫するリスクは避けるべきです。バリエードリブンで小さな実験を繰り返し、現場の反響が大きい施策を軸に進めるアプローチ(アジャイル開発的な手法)こそが実践的であると考えます。</p>	<p>本計画では、地方自治体の事業の流れとして「計画」・「実行」・「検証」・「改善」の手順によるPDCAサイクルに基づき取組状況の検証と改善を行うこととしておりますが、ご指摘のとおり、過疎地域を取り巻く環境変化が大きい中では、迅速かつ柔軟な対応が求められる場面もあるものと認識しております。 そのため、事業の実施にあたってはPDCAを基本としつつ、現場の状況に応じた小規模な取組の早期実施や、結果を踏まえた機動的な見直しに努めるなど、実態に即した運用を図ってまいります。 また、地域課題の把握や意思決定においても、住民や関係機関からの情報収集に努め、必要に応じて施策の優先度や進め方を適切に調整することで、効果的な事業推進に取り組んでまいります。 いただいたご意見は、進行管理手法の検討にあたり十分な参考とさせていただきます。</p>

5	<p><15ページ 2. 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成></p> <p>若者の定住促進には、単なる「労働の場」の提供だけでなく、高い意欲を持って働ける「ワークエンゲイジメント」の視点が重要です。私は現在、詫間町大浜よりフルリモートで都市部の企業に勤務しておりますが、自然豊かな三豊市で都市部の高度な業務を行うことこそ、若者の創造性を最大限に発揮できる環境であると実感しています。 現在、勤務先への企業誘致等の働きかけを行っておりますが、行政計画としても、ワークライフバランスを超えた「都市部の仕事×三豊の環境」を実現するサテライトオフィス誘致や環境整備を、より強力に推進していただきたいと考えます。</p>	<p>若者の定住促進において、単に就労機会を確保するだけでなく、意欲を持って働ける環境づくりが重要であるとのこと指摘は、重要な視点であると認識しております。自然環境の中で都市部と同水準の業務に従事できる働き方は、本市の魅力を生かした定住促進策として有効であると考えております。</p> <p>本市としても、多様な働き方を支えるための環境づくりや、サテライトオフィス誘致の可能性について、今後の検討課題として認識しているところです。引き続き、関係企業等との連携のあり方を探りながら、「都市部の仕事×本市の環境」を生かした就労環境の充実に努めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、移住・定住施策を実施するうえで参考とさせていただきます。</p>
6	<p><44ページ 10. 集落の整備></p> <p>新たな農林水産事業の創出について（地域資源の再定義）既存の枠組みにとらわれず、地域の未利用資源を活用した高付加価値事業を提案します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ バンパスグラスの事業化： <p>現在、裏山などに自生しているバンパスグラスは、単なる雑草ではなく、フラワーアレンジメント市場等において高値で取引される「商品」になり得ます。病害虫に強く、水やり等の手間もかからないため、耕作放棄地の活用策としても有効です。株分けによる増産と商品化を検討しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 内水面養殖（トラウトサーモン・無毒ふぐ）によるブランド化： <p>財田川や高瀬川の水資源、あるいは遊休農地を活用した陸上養殖により、トラウトサーモンや「無毒ふぐ」を生産し、新たな特産品としてのブランド化を提案します。 特にふぐは、陸上での徹底した管理下で養殖することで、毒を持たない安全な高級食材として提供可能であり、高い収益性が期待できます。 給餌においては、小豆島のオリブサーモンに倣い、三豊市の特産品である「高瀬茶の枝葉（カテキン成分）」や「規格外のみかん（ビタミン成分）」を飼料に配合することで、未利用資源の有効活用を図ると同時に、「健康サーモン」や「みかんふぐ」といった独自の付加価値を創出できると考えます。</p>	<p>ご提案いただいた、バンパスグラスの活用や内水面養殖による新たな特産品づくりについては、地域資源を有効に活用した高付加価値事業の可能性として興味深いものと受け止めています。未利用資源の活用やブランド化に向けた取組は、地域の魅力向上や産業振興に寄与する視点として重要であると認識しています。</p> <p>今回の計画では、過疎地域全体の方向性を示すことを目的としているため、個別の事業提案については記載していませんが、ご提案いただきました地域資源の活用に関する多様なアイデアは、今後の施策を実施するうえで参考とさせていただきます。</p>
7	<p><全体></p> <p>本計画の実行にあたっては、限られた資源を有効活用するため、画一的な「平等（Equality）」ではなく、地域の実情や透明性を重視した「公正（Equity）」な経営視点を持って施策を進めていただくことを要望します。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 7つの経営資源の戦略的活用： <p>過疎地域においては、従来の経営資源である「ヒト・モノ・カネ」の減少は避けられません。しかし、残る4つの資源である「情報（データ・ナレッジ）」「時間（スピード）」「知的財産（ノウハウ・知恵）」「ブランド（信用・魅力）」は、工夫次第で無限に拡張可能です。特に「時間」については、前述のOODAループによる意思決定の迅速化で優位性を保ち、「知的財産」については、住民や企業が持つ知見をオープンに共有することで価値を高めることができます。行政には、減少する有形資源を補うため、これら無形の経営資源を最大限に引き出し、効果が見込める施策に対して戦略的に資源を配分する実行と、そのプロセスを担う「シェアード・リーダーシップ（分担されたリーダーシップ）」の発揮を期待します。</p>	<p>限られた行政資源の中で施策を効果的に進めるためには、地域の実情を踏まえた公正な視点から資源を配分していくことが重要であるとのこと指摘は、重要な視点であると認識しております。なお、一方で7つの町が対等合併し、多極分散型ネットワークのまちづくりを目指す三豊市にとっては、すべての地域を取り残すことのない「平等」の視点も、欠かすことのできない重要な視点として捉えております。</p> <p>人口減少が進む中で「ヒト・モノ・カネ」などの有形資源が縮小する一方、情報、時間、知識・ノウハウ、地域の魅力といった無形資源をどのように活用していくかは、今後の施策推進において大きな鍵となるものと考えております。</p> <p>本市としても、地域住民や関係団体が持つ知見の共有や連携の促進、状況変化に応じた迅速な意思決定など、無形資源を生かした取組について意識しながら、実効性の高い施策の展開に努めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は、本計画の実施にあたっての考え方として参考とさせていただきます。</p>